

「学ぶ力」	
成果	課題
◇共通指標集計「学習などについてのアンケート」で、「自分にはよいところがある」に肯定的に答えた児童は令和6年度89.6%、7年度は92.3と、自己肯定感を高める取組に成果が見られる。 ◇学校独自の児童アンケート「ペアベ（ペア学年交流）など、違う学年と行う活動は楽しいですか」の回答に肯定的に答えた児童は令和6年度では94%、令和7年度では96%と高い数値を示しており、自治的活動の充実が伺える。	◇ICT 機器端末の使い方やネットスキルが身につけている一方で、マナーやネットモラルに気を付けて適切に扱うことについて課題が見られる。 ◇共通指標集計「学習についてのアンケート」で、「振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがある」の項目では、令和6年度から7年度にかけて85.5%から82.8%に低下していた。振り返りの有効性について、児童に適切にフィードバックすべきであった。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇共通指標アンケートで、「自分が必要とされていると感じる」の項目について、肯定的な回答の割合が増加傾向にある。ただし、ほかの自己承認に関わる項目が90%を超えているのに対し、「自分が必要とされていると感じる」の項目はおよそ、80%と割合は低い傾向にある。学習活動や行事の中で、相互評価の場を設定し、自己肯定感の高まる取組を行う必要がある。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

「自己肯定感を高める子の育成」～協働的な学習風土と「やってみたい」につながる導入を通して～

課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
【研究主題 自己肯定感を高める子の育成】 ～協働的な学習風土と『やってみたい』につながる導入を通して～ (1) 「分かった・できた」「認められた」「やってみたい」という3つの自己肯定感が高まった姿が見られるような授業を構築する。見取りの手だてとして振り返り(Refraction)の手法を取り入れる。また、分かった・できたを生むために学習の見通しがもてるような導入(Introduction)に力を入れていく (2) 学習環境の基礎や児童相互のコミュニケーションの取り方を学校全体で共有することで自己肯定感が生まれる素地を作る。	【異年齢交流（ペアベ）の充実】 ◇ペア学年で関わりをもたせることで、思いやりの気持ちを育てる。高学年が中心となって、主体的に活動を計画し、自分たちで創り上げる活動を大切にしていく。 【委員会活動】 ◇5年生が3月に来年度の児童会テーマを設定し、どんな学校にしたいかをイメージをもたせ、自分たちが目指す学校に向けた取組を考えていく。 【クラブ活動】 ◇5年生が次年度の設置クラブと所属を話し合い、自分たちで活動を考えていく。
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
◇「厚別通小学校 chromebook スキル目標」を設定し、各学年の発達段階に応じてスキル目標を定めている。一人一人の意見や考えが可視化されるシステムを生かしお互いの理解を深めることで自己肯定感を高める一助とする。 ◇パートナー校との連携で、スキル目標や使用アプリの交流を行うとともに、クラスルーム上で交流する機会を作り、子ども同士の声をつながられるようにする。	

<本プログラムの実行に向けて>



